

「経営（ESG）」と「技術（SDGs）」を両輪とする 海事クラスターで生きる海技者に求められるものはなにか

海事問題調査委員会 委員長 松田 洋和（東船大 N22）

コロナ禍にあり、令和3年度の実事問題調査委員会の活動では、TV会議による遠隔開催により、「報告書」で取りまとめる主題を何にするかを委員会において話し合ってきました。

日本海事新聞令和3年1月1日付けの紙面に海運大手3社トップの「新年の抱負」では、経営者としてESG（環境・社会・企業統治）経営の重要性を述べています。このESG経営を進めるに当たっては、技術も含むSDGs（持続可能な開発目標）を見据えた活動が必須と言えます。

当委員会は、海事社会の諸問題に注目して調査・研究を行い、海洋会の読者に可能な限り分かり易くお届けすることに努めてきました。

今年度は、海事社会の発展には、経営（ESG）と技術（SDGs）を両輪として海技（船・海技者）が有効に機能することが欠かせないものであるとの確信のもと、この両輪に支えられ、或いは支えることにもなる海技（船・海技者）に求められるものが何かを考えるきっかけになればとの思いで、「報告書」を取りまとめました。そこでは、『「経営（ESG）」と「技術（SDGs）」を両輪とする海事クラスターで生きる海技者に求められるものはなにか』と題して以下の3つのサブ・テーマについて取りまとめました。

I. AI・Big Data・サイバーセキュリティ

～大学における取組 / 自動運航船の実用化に向けた動き / 自動運航船に係る海技者教育の問題
（自動運航船における海技者に必要な教育訓練）～

II. ゼロエミッション

～2050年カーボンニュートラル / 国際海運における化石燃料に代わる船舶燃料（ゼロエミッション達成に向けて）～

III. 海技（船・海技者）を取りまく環境の変化

～気候変動が海事産業に及ぼす影響 / 中東情勢が緊迫している中、これからの海技者に求められること～

海事問題調査委員会委員

委員長 松田 洋和（東船大 N22）

委員 掛谷 茂（東船大 E22）

山岸 雅仁（東船大 N39）

稲葉 洋輝（東船大 MN11）

福岡 将之（神船大 BN48）

井上 尚則（神船大 E31）

庄司 るり（東船大 N34）

中田 治（神船大 N35）

令和3年度の実事問題調査委員会報告は、本誌78頁～114頁に掲載していますのでご一読ください。